

令和2年度からの課題研究について（2カ年）

【研究主題】 令和2・3年度

「確かな学力」の育成を図る学習指導の在り方 ～自己の学びを振り返り、主体的な学びの実現を図る学習指導の充実～

I 主題設定に関わって

1. 主題設定の背景

子供たちに訪れる未来の社会について、中央教育審議会は答申¹の中で、「21世紀の社会は知識基盤社会であり、新しい知識・情報・技術が、社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増していく。」近年では「知識・情報・技術をめぐる変化の早さが加速度的となり、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて進展するようになってきている」と述べている。

このような社会を生きる子供たちは、「解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解いたり、定められた手順を効率的にこなしたりすることにとどまらず、直面する様々な変化を柔軟に受け止め、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考え、主体的に学び続けて自ら能力を引き出し、自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして、新たな価値を生み出していくために必要な力を身に付け」ること、「自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにすること」が重要とも答申¹の中で述べている。

2. 主題設定の理由

小学校学習指導要領【総則編】において「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるに当たって、特に主体的な学びとの関係からは、児童が学ぶことに興味や関心をもつことや、見通しをもって粘り強く取り組むこと、自己の学習活動を振り返って次につなげることなどが重要」とあり、知識や解き方の会得から課題の発見や新たな学びに向かうことができるようにするためには学習における見通しと振り返りの在り方が極めて重要であると考えられる。またそれらは教育課程や単元計画・指導方法と一貫性を持った形で改善することが求められる。

当センターでは、平成30年、31年（令和元年度）の2カ年で「『確かな学力』の育成を図る学習指導の在り方～自己の学びを振り返り、次につなげる学習評価の充実～」を研究主題とし、「見通しをもたせる」、「協同的な学習活動」を中心に子供が主体となる学習を展開し、終末に自らの学びを振り返る場面を設定した授業づくりに焦点をあて、研究を行った。研究の成果として2つのことが確認された。一つ目は『見通しを持たせたことで、子供が学習のねらいに正対していた』ことである。学習を見通すことで、子供が授業の流れやねらいを把握し、終末にはねらいとした考え方や知識を振り返って記述することができていた。二つ目は『振り返りを重ねることで子供の自己評価する力の向上が確認

できた』ことである。振り返りを記述させ、積み重ねることで、子供が学習の理解度を自己評価したり、前時の学習を生かそうとしたりする態度の変容が確認できた。

また、発展段階として2つのことが確認された。一つ目は『振り返りの視点を与えた』ことである。これにより課題に対して正対した内容の記述であったり、身につけた知識を振り返り問題で確かめられたりと、「振り返りの視点を与えることで児童の学びがより深まる」ことが確認できた。二つ目は『振り返りの活用』である。「導入に前時の学習を振り返ることで学習の見通しを持ち主体的に学習に関わっていた」ことが確認できた。既習事項を振り返ったり、課題への困り感を交流したりすることが次の学習活動の見通しとなり児童が主体的に学習に臨むことができる。授業の終末だけでなく、導入部や中間など、ねらいに合わせて学習を振り返る場面を設けることは、児童の主体性を引き出し、学びを確かなものにする有効な手段だと交流できた。

本年度の研究は前年度の発展的な確認事項を受け、「『確かな学力』の育成を図る学習指導の在り方」を研究主題とし、児童生徒の振り返りの充実と活用を図った学習に焦点を当てて取り組む。具体的には、前研究の成果である「見通しを持たせる」「振り返りの場面を設ける」ことで子供が主体的に学習に臨める基盤のある学習活動を行いながら、子供の学びがより深まるよう、「学習のねらいに応じて振り返りの視点を明確にする」ことや「1単位時間内、単元や題材のまとまりの中での有効的な振り返りの活用」を図る。

振り返りの場面を効果的に単元計画及び単位時間内に位置付け、ねらいにあった視点を与えることで、子供は、何が分かり、何ができるようになったかを確認すると同時に新たな課題の発見や見通しにつなげることができるであろう。身につけた力の活用体験が学習の有用性の体感につながり学習への意欲や学びに向かう人間性が培われるであろう。

¹ 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（文部科学省 平成 28 年 12 月 21 日）

Ⅱ 研究の全体構造図

1. 研究主題

「確かな学力」の育成を図る学習指導の在り方
～自己の学びを振り返り、主体的な学びの実現を図る学習指導の充実～

2. 目指す子ども像

- ・自己の学びを振り返り、学びの状況を把握して次の学習につなげようとする子ども

3. 研究の仮説

- ・振り返りの視点を与えることで、子供がねらいより効果的に学びを振り返ることができ、確かな学びにつなげることができるであろう。
- ・身につけたことを活用する場面を設けることで、学びを活用する有用性を感じ、学びを

つなげようとする態度が培われるであろう。

4. 研究の内容

- (1) 「効果的な振り返り活動の位置づけ」に関する理論研究、実践
- (2) 「効果的な振り返りの視点」に関する理論研究、実践
- (3) 先進校の視察研修及び振り返りに関わる研修会への参加

参考

平成 28 年度小学校教育課程改善の手引き

小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説

平成 28 年度「教育研究員研究報告書」東京都教育委員会